

開催日:令和2年1月21日(火)

場所:生野区役所6階 604・605会議室

発言者	ご提言(要約)	区のお考え方、対応(要約)
船方委員	<p>生野中学校と田島中学校の再編のところで、同じ小中一貫校であるけれども、1つは義務教育学校で、1つは施設一体型小中一貫校となっている。去年4月に開校した桃谷中学校の時はその話はなかったと思う。どういった経過でこのように決まったのかを教えてください。</p> <p>また、2種類の学校ができることで、この2種類の学校間で学力に差が出ないのかという不安がある。その点についてもお聞きしたい。</p>	<p>生野区西部地域学校再編整備計画では、1学年、複数学級となるように再編を考えているが、単に数合わせを行うだけではなく、こどもにとってよりよい教育環境とするために、9年間で育てていくという観点で、小中一貫した教育ということを一つの柱として行ってまいりたいと考えている。</p> <p>なお、去年4月に開校した桃谷中学校の時は、特に中学校の再編を急ぐべきとの考えのもと、小学校に先行して再編を行ってきたものであるため、小中一貫という話はあまりしていなかったが、小中一貫した教育をしていこうという計画である。</p> <p>次に、2種類の学校ができることで、学校間で教育に差が生じないかとの点だが、それぞれの学校においてこどもたちの実態を把握し、工夫した教育活動を行うので、絶対的に差は出てくる。ただし、それは学校の種別によって生じるのではない。いずれにしても、公立の学校なので、学習指導要領に沿って教育活動を行うので、大きく逸脱したものにはならない。</p>
榎木委員	<p>学校が再編された場合、こども見守り隊はどうなるのか。</p>	<p>こども見守り隊については、引き続き、ご協力をお願いしたいと考えている。当然再編によって通学路が遠くなる児童も多くいることから、学校設置協議会の中で新しい通学路の安全対策についてご意見を頂きながら、対策を検討していくことになるが、その中で、今までこども見守り隊にご協力いただいている部分は、引き続き、ご協力をお願いする方向で計画を進めている。</p>
大藤委員	<p>学校の跡地活用の参考事例には、どのようなものがあるのか。</p>	<p>例えば、京都市に京都精華大学と共同運営している「京都国際マンガミュージアム」という施設がある。小学生は年間1,200円で漫画が読み放題となっており、こどもだけでなく大人も利用し、いわゆる居場所となっている。また、建物は、地域の夏まつり、運動会、避難所として活用するとともに、学校の思い出の部屋も残しており、歴代の校長先生の写真、学校の歴史、また校歌とともにビデオが流れるなど卒業された方が訪れる部屋がある。</p> <p>他の事例では、ものづくり学校になったり、介護施設、保育園、児童館など様々となっている。</p> <p>文部科学省のホームページに「みんなの廃校」プロジェクトというサイトがあるので、ご参照いただければと思う。</p>
新井区PTA協議会会長	<p>今、学校には、様々な国のこどもたちが通っており、中には日本語が話せないこどももいる。いったん中学校に登校して、すぐに日本語指導を行う学校に通いに行くが、遠い場所まで行く必要がある。学校の跡地で、日本語を教えるところ学校ができれば、こどもの安全の面からも助かると思う。</p>	<p>—</p>

発言者	ご提言(要約)	区の考え方、対応(要約)
金委員	<p>小・中学校の課題は、幼児教育の時に届かなかった部分大きいと思う。絵本の読み聞かせや幼児教育など子育てにおいて、未来像をどのように考えているのか。</p>	<p>絵本の読み聞かせでは、来年度、(仮称)絵本100選という企画を考えており、お勧めの絵本の紹介と絵本を読んだ時にこどもがどのような表情をしたのかということ記録する日記を作成して配付したいと考えている。また、冊子の中には、子育て支援施設の場所も掲載し、子育ての孤立化が少なくなるように進めてまいりたい。</p> <p>幼児教育については、教育委員会で幼児教育と小学校の連携を研究しているが、保育士不足という問題もあり、課題の解決までには至っていない状況となっている。ただ、小学校入学前の過程での差は、小学校2年生までに適切な支援があれば埋まるというデータがあるので、低学年への学習支援も大切だと考えている。</p>
池原委員	<p>こども食堂は、「こどもたちに朝御飯を食べさせてあげて、元気にしたい」との思いから始め、月2回、舍利寺小学校の生徒を対象に実施している。こども食堂では、「挨拶をする」、「靴は脱いで並べる」、「手を洗う」、「(食事はバイキング形式なので、)食べ物は絶対に残さない」など、先ずは礼儀等から教えるようにしている。月2回しかないが、みんな楽しみにしてくれていて、遅刻も減ったと聞いている。できるだけ続けていき、こどもたちに元気をあげたいと思う。</p>	—
大藤委員	<p>中学生が高校生になって通学した後の状況について、特に中退した場合に出身中学校への連絡や復学等へのフォローはあるのか。</p>	<p>特に中退者が出た場合に出身校への連絡等があるのかの点については、常日頃から中高で連携しながら進めている中で、個々の事情を踏まえた上で出身中学校に連絡することになっている。</p> <p>なお、大阪市では、次の進路で悩んだ時に寄り添いながらフォローを行う「大阪市若者自立支援事業コネクションズおおさか」などを紹介する「十人十色な進み方」というチラシを、大阪情報コンピュータ高等専修学校の生徒と話し合いながら作成し、一先ず区内の中学校と高校等に配付させていただいた。引き続き、広く情報を伝達していく。</p>
田中委員	<p>魅力的な教育環境づくりを行った事例として、平野区の加美東小学校の図書室改修プロジェクトがあったので紹介する。</p> <p>今回の図書室の改修工事では、設計者などは地域のプロの方に無償で協力してもらい、大工は用務員が担うことで、材料費のみの費用負担で改修を行ったと聞いている。また、改修後の図書室では、「こどもたちが来なくなる図書室をつくろう」ということで、こどもに読ませたい推薦図書を並べるのではなく、こどもが読みたいと思う本を並べた。そうすることで、だんだんとみんなが寄ってきて、本を読むようになって、荒れていた学校が良くなったと聞いている。</p> <p>やはり地域の方がこどもたちのために力を貸す、そういう姿をこどもたちも見ていたのではないかと思う。生野区でも、そういう大人が知恵を出し合いながら、こどもたちのために何かをする姿を見せられればと思う。</p>	—

発言者	ご提言(要約)	区の考え方、対応(要約)
山崎委員	<p>多くのイベントやプロジェクトがあるが、受け取る側の問題もあるかもしれないが、正直あまり知らない。良い取組みをしていると思うので、情報を届けてほしいと思うし、全体で何か伝える方法を考えていけたらと思う。</p>	—
新井区PTA協議会会長	<p>「生きるチカラを育む絵本プロジェクト」というイベントは、お父さんが子どもを連れて来て絵本を選ばせたり、妊娠期のお母さんがイヤイヤ期の子どもを抱いて来てくれたりなど、イベントを通じて、子育ての悩み相談など大変な思いをされている方の手助けができる非常に良いイベントなので、継続して推進してほしいと思う。</p>	—

令和2年度生野区区政会議(第1回こどもの未来部会)  
 いただいた主なご意見等(要約)と区の考え方、対応

開催日:令和2年8月5日(水)

場所:生野区役所6階 大会議室

発言者	ご提言(要約)	区の考え方、対応(要約)
榎木委員	<p>次世代の学校づくりについて、民間事業者を活用した課外授業ということで、いくの塾の会場が3か所あるとなっているが、科目が英語と数学で国語が入っていないのは、何か理由があるのか。</p>	<p>1万円以内で、やっぱり受検で大きなポイントとなる教科となると、どうしても英語と数学を優先せざるを得ないので、その2教科を主にやっています。実際、英語とか数学を教えていく中で、国語の力がとても弱い子がいたら、それは個別に対応してもらっているというのは聞いています。</p>
榎木委員	<p>いくの塾の受講者数が非常に少なく思うが、基礎学力を増やすためにはもっとアピールをして、参加できる体制を推進し、参加することもたちが増えるように、今後は踏まえてやってほしいと思う。                  もう一つ、家庭学習も勉強していない子が非常にいるが、親の協力が少ないと思う。学校だけではできないので、親も一緒に入っていきよう、家庭の協力のアピールも必要だと思う。</p>	<p>学校を通じての案内はさせていただいているが、また皆さんからも周知のご協力をいただけたらありがたいと思います。</p>
倉本 PTA会長	<p>コロナウイルスが感染拡大している中、授業の遅れや、教職員の消毒作業の疲労感が授業に影響してたりするので、みらい塾やいくの塾のように費用負担が少ない学習機会をもう少し拡充してもらえると嬉しい。                  どうしても経済格差が学習格差になり始めているので、シングル家庭や生活困窮の家庭のこどもたちの教育学習権の確保等の市行政の支援をさらに拡充させてもらえると嬉しい。                  また、声掛け事案等、こどもに対する安全確保面で生野区はまだまだ弱いと感じるので、地域の皆も含め、大人たちの目でこどもたちの安全をさらに確保してもらえたら嬉しいということと、私たちPTAとしても改めて一緒に協力し合いながらこどもたちの身の安全と心の健康と成長を支援していけたら良いなと思っている。</p>	<p>—</p>
福田 PTA副会長	<p>いくの塾とみらい塾に新巽中学校が入っていないことに理由はあるのか。</p>	<p>新巽中学校については、学校地域独自で取組をされていると伺っています。ですので、区の事業としては導入していませんが、同じようにその中学校区ごとにほかの民間事業者の塾とは別の形の取組は、生野区内8中学校全てで実現しています。</p>
船方委員	<p>学びの支援事業の中で、模擬検定と外部試験を14小学校で実施とあるが、区内に19校ある中、どうして14校なのか。</p>	<p>実施されていない学校の例を挙げると今年度体育活動を校内研究のテーマにされて模擬検定を活用しなかった学校や、今年度は算数科に重点的に取り組むということを学校で計画を立てていただいているところがあります。                  そういったことからこの制度を活用しなかった学校がある状況にあります。</p>

発言者	ご提言(要約)	区の考え方、対応(要約)
船方委員	<p>今年度から小学3年生から英語教育が入ってきていると思うが、全19校下で英検Jr等を取り入れていかないとこどもの英語に対する興味等が湧いてこないと思う。英検Jrを受けることで勉強した結果が見えてくるとこどもたちも自発的に勉強しようというようになると思うので、もう少し力を入れたら良いと思う。</p>	<p>大阪市は校長の裁量をここ数年広げてきていることもあり、提案として皆さんで一斉に同じ検定をやってみませんか等投げかけたりはしていますが、今の優先順位が高いものを各校の事情でされているのが現状です。 ただ、これから小学校英語が本格的になっていく中で、例えば中学校区はみんな一緒にやる、同じ中学校に行くこどもたちはみんな英検Jrを通じて積み重ねていって中学校で英語をできる状態で入るというような学校づくりを中学校単位で考えていくのも良いと思うので、校長会へ上げておきます。</p>
池原委員	<p>令和元年度の業績目標の学校設置協議会の目標が4中学校で実績が3中学校になっているが、目標未達成の1中学校がどこのか、また要因分析と課題の方で保護者、住民への説明を行っていく必要があると書いているが、それはすでに予定として日にち等決まっているのか。</p>	<p>学校設置協議会が設置できていないのは田島中学校区です。 保護者、住民への説明の予定としまして、これまでも計画を作った段階や随時説明会は行ってきましたが、今、具体的にどのような説明会をするのかは決まっていません。ただ、大きな説明会という形ではなくとも、今、現在出前講座という形で区に申し込ただけであれば、説明に伺う、もしくはご意見を頂戴するという形をとらせていただきます。</p>
伊藤(廣)委員	<p>生きる力まなびサポート事業、ここにはキャリア教育、性・生教育の二本柱ですが、それ以外に何か増やしていく考えはあるのか。 こどもの頃にいろんな経験をし、見聞きすることで、自分の将来やりたいことを見つけしていく可能性が高いのではないかと思うので、この視野を広げていただけたらありがたいと思う。 学校から今あるメニュー以外のメニューでお願いがあれば、考えていく余地はあるのか。</p>	<p>学校からのニーズがございましたら、そういったことも検討していければと思っています。ただ、それに沿った講座のメニューと講師をしていただく方も登録いただく必要がありますので、例えばこういう講座ができるよといったことをお聞きになられたりとかありましたら、ご紹介いただければ非常にありがたいと思います。</p>
山崎委員	<p>今、西部のほうは学校再編整備がどんどん進められていますが、東部の方の再編予定について、大体でもわかっているなら教えてほしい。</p>	<p>大阪市全体の取組として、小規模な学校の基準とその解消する取組の進め方について、この4月に条例が施行されました。生野区の東部地域でも小規模校の基準に当てはまる学校が数校あります。ただ、その基準と進め方におきまして、その基準にあてはまる学校の中でも直ちに進めるべき学校と、児童数の推移を見守るという状況の学校に分類されまして、今現在、昨年度の児童数の状況と今後の児童数の推移に基づきますと、今直ちに計画を立てて取り組むべき学校というのは、東部地域にはございません。 ただ、現在小規模な学校になっている状況がございましたので、機会を見つけて今の状況がどうなって、そのことによってどういった児童にとってのメリット・デメリット、また学校教育環境としてどういったことなのかをご説明できればとは思っています。</p>

発言者	ご提言(要約)	区の考え方、対応(要約)
金委員	義務教育学校と小中一貫校の違いを分かりやすく説明してもらいたい。	<p>義務教育学校は1つの学校集で、小学校6年間・中学校3年間の9年間で完結する1つの学校です。また校長は1人です。教育課程は小中一貫校と違い、小学校課程(前期課程)、中学校課程(後期課程)を柔軟に扱うことができる特例があります。あとは免許について、小学校・中学校両方の免許を持っていることを基本としています。しかし、学校再編の当座は、もともといた小学校の先生がそのままできるだけ多く来ていただく方が子どもたちにとっては安心できる環境と言えるかと思います。そのあたりを考慮して片方の免許のみでも大丈夫なように柔軟に対応してもよいとなっております。</p> <p>対して、小中一貫校は、同じ敷地内、もしくは隣接、もしくは連携している小学校と中学校を言います。校長は小学校中学校にそれぞれいますが、大阪市は施設一体型の小中一貫校というタイプを取っている場合が多いので、その場合は小学校と中学校を兼務されている形をとっています。</p>